

第 18 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会(東京)の概要について

2 月 3 日(金)、「第 18 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会」を東京都立産業貿易センター浜松町館において開催しました。

交流会では、出展者は 79 団体、来場者は約 470 名と、多数の方にご来場いただきました。

1 出展者数 ブース (79 団体)

(JA 及び生産者 42、植物工場 3、種苗会社 14、流通・加工業者 15、行政等 5)

2 来場者数 約 470 名 (出展者を含まない)

- ・メーカー・製造・加工 (79 名)
- ・外食・中食・給食関係等 (48 名)
- ・流通関係業者 (215 名)
- ・行政・関連企業 (119 名)
- ・マスコミ (9 名)

3 ブースの内容

全国各地から冬春野菜を中心に、様々な野菜が展示されました。中でも新品種野菜が多く紹介され、来場者は出展者の説明を熱心に聞いていました。また、本交流会より加工業者の出展も可能になり、野菜単体のみならず、カット野菜や飲料、漬物等の加工品も多く展示され、幅広い内容の充実した展示会となりました。



4 マッチング促進セミナー

マッチング促進セミナーでは、倉敷青果荷受組合 青果事業部長 富本尚作氏と内閣府 食品安全委員会事務局 勧告広報課 リスクコミュニケーション専門官 久保順一氏にご講演いただきました。

いずれのセミナーも、参加者は熱心に聴講し、大変好評でした。



講師及びセミナータイトル

① 倉敷青果荷受組合

青果事業部長 富本 尚作 氏

「国産玉葱による加工・業務用需要への取組と契約取引」

② 内閣府 食品安全委員会事務局 勧告広報課

リスクコミュニケーション専門官 久保 順一 氏

「放射性物質と食品の安全性について～リスク評価を中心に～」

5 アンケート結果

回答数：295 件（うち、「役に立った」との回答数 273 件(93%)、その中で「情報交換ができた」との回答数が 190 件（38%）、「参考となる情報が得られた」との回答数が 165 件(33%)）

○ 来場者からの交流会に対する主な意見

役立った、良かった内容	今後の改善、要望等
<ul style="list-style-type: none">・ 新商品開発に役立った。・ 探していた商材が見つかった。・ 契約取引のセミナーは、興味深いものだった。・ 新しい野菜があり、参考になった。・ 全国の生産から流通までをみることで、よかった。・ 他の産地の取組みがよくわかった。・ 加工用に求められる特性などの情報が得られた。	<ul style="list-style-type: none">・ 実需者が、どんなことに興味を持っているのか事前に分かるといい。・ 野菜の生産者や業者にもっと出展してほしい。・ 新品種だけではなく、既存品種の取扱いができる生産者のブースを多くしてほしい。・ 逆の方式（バイヤー側がブースを設ける）の導入も検討できないか。